

# 特許紹介

第26巻 第8號 昭和15年8月

## 管端の接合装置

(特許第 136 872 號 發明者  
(特許權者) ワーネル・ペルヒ)

接合せんとする 2 個の同一直径の管の一方 (1) の管端外周に内面が圓錐形で其の 1 部に楔溝 (4) を設けた雌形フランジ (5) を設け、而して他方の管 (8) の端部外周に前記雌形フランジに密嵌する圓錐面を有すると共に前記楔溝 (4) に密嵌する楔 (7) を設けた接合環を嵌挿して管端を接合する装置である。其の製作簡易にして接合解體容易なる特徴がある (圖-1, 2)。

圖-1.

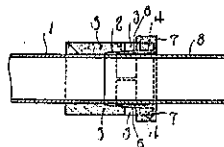
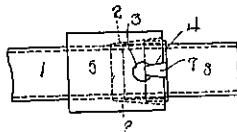


圖-2.



## 建築物の潜函方法

(特許第 135 918 號 發明者 山先 勇  
(特許權者) 竹中工務店)

建築物全體を平均に地下に沈下せしむる爲の一方方法である。

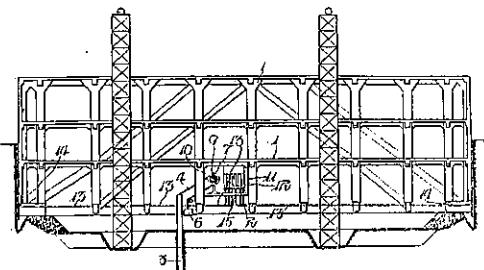
建築物の内部に測定所 (2) を設け、別に建築物とは無關係に深き地中より柱 (3) を樹て、之に紐 (4) を連結して記録針 (7) を建築物の沈下に從ひ移動せしめて記録紙 (10) に單位時間に於ける沈下速度を表示せしめ、更に測定所には多數の硝子管 (11) を設け之に目盛 (12) を附し水を入れ之を可撓管 (13) にて建築物の各所に設けた沈下表示部 (14) と連結するのである。かくて記録紙 (10) と硝子管 (11) とを見つゝ監督する時は何れの部分の沈下が多きか、又全體の沈下速度如何を知り得て沈下工事作業に便益を與へ得るものである (圖-3)。

## 射出水の水勢減殺装置

(特許第 135 939 號 發明者  
(特許權者) 山口直樹)

水力発電所の餘水路又は灌漑用水路等は地形により

圖-3.



急斜面に沿ひ築造し其の末端は平坦部の水路又は河川に接續するのが普通であり、射流の水勢は一般に水路を構成する構造物により抵抗せしめる場合が多く従つて破壊又は洗掘を來す事がある。本装置は管路の末端に分岐、放流、合流、漸擴、水整等の作用をなさしめて逐次水勢を減殺せんとするもので、垂直分岐路 (2) 放射口 (3) 放射室 (4) 漸擴水路 (5) 水平環狀分水路 (6) 合流口、垂直圓筒狀水路 (7) 水勢調整室 (8) 流出孔 (10) 水整スクリーンを設けたものである (圖-4, 5, 6)。

圖-4.

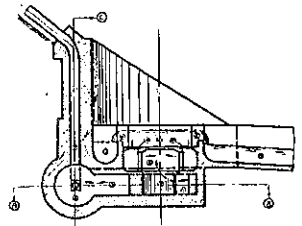


圖-5.

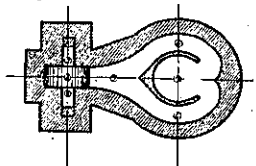
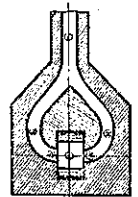


圖-6.



## コンクリート用埋込子

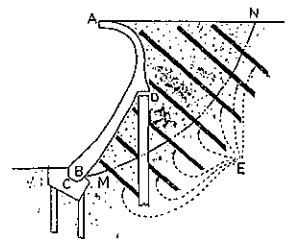
(特許第 135 954 號 發明者  
(特許權者) 小川久吉 瀧門)

## 土留工

(特許第 136 056 號 發明者  
(特許權者) 金森誠之)

護岸、岸壁、擁壁等の土留壁の設計は從來に於ては構造物を主働土壓を支持せしめるやうにしたものだが、本發明は受働土壓以下の壓力を反つて構造物より土に與ふる事により主働土壓の發動を阻む攻撃工法を採つたものである。圖-7 の如く任意の面 (A), (B) の脚部 (C) を固定せしめず脊部の土に寄り掛り得るやうにして土の支へ得る程度の壓力を土に加はらしめ、且つ一定の限度以上沈下しないやうに支臺 (D) を設ける。土壓の大なる場合は脊面にある土のたりに交又して棒、板等を土中に埋め込み主働土壓を輕減するのである。

圖-7.



### 彎曲屋根構成法

(特許第 136 097 號 發明者)  
(特許權者) 宇佐野行一

4 等邊より成り筋違ひを施した組成棒 (1) の 1 邊を左右の基礎 (2), (3) 上に内側に傾斜せしめ相接続して並置し相互に連結固定せしめた後、前記組成棒 (1) の上邊に其の組成棒を 2 等分せるもの (4) を積重ねた後更に (1) と同様な 4 等邊組成棒 (5) の 1 邊の中央部を組成棒 (1) の継目上に内側に傾斜せしめ相接続して並置し相互に連結固定せしめ逐次同様な組成棒を市松状に積重ねアーチ形に連結せしむる方法で、之に依り別に大なる梁材又は斜繫材を使用せず堅牢且つ經濟的な屋根を構成せんとするものである (圖-8)。

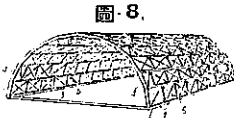


圖-8.

### 橋梁構築方法

(特許第 136 187 號 特許權者)  
(發明者) 木山辰造

河川運河或は溝道の掘鑿に先ち橋梁を架設すべき陸地の各橋脚位置に夫々堅坑を掘鑿し其の底部に夫々基礎を構築し、之に橋脚となるべき支柱を植立し、支柱の上部地面上に於て橋桁橋床を架設し、然る後所要の河川或は運河等を開鑿する方法で(圖-9)、かく河川等の開鑿に先だち橋梁を構築する點に特徴がある。

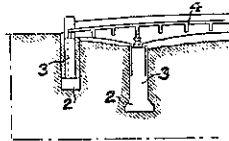


圖-9.

### コンクリート假棒締付方法

(特許第 136 194 號 發明者)  
(特許權者) 鈴木四藏

### コンクリート堰棒緊結装置

(特許第 136 200 號 發明者)  
(特許權者) 岡安太郎

### 基礎井筒沈下方法の改良

(特許第 136 215 號 發明者)  
(特許權者) 木村文彦衛門

下端部を擴大した井筒を用ひ其の沈下に從ひ井筒の周圍に形成せられる空隙部に粘土其他水より比重の大なる溶液を注入充滿せしめ、且つ其の溶液中に壓縮空氣を送給し之を撈亂して其の沈澱を防止しつゝ沈下操作

を遂行する方法で、井筒の周圍の空隙部分に充滿せる比重の大なる液體の水壓により地盤の土壓により崩壊を防ぎ且つ井筒と之に接する液體との摩擦係数の少なきを利用して井筒の自重沈下を可能ならしめたものである。

### (附)登録實用新案

#### 金網蛇籠

(第 282 966 號 公告 14 年第 17 381 號)  
實用新案權者 山下 榮

圖-10 の如く、蓋網を使用せず連環狀蓋棒 (1) (環は胴網の網目より小なり) を端部とし、蛇籠の末端を傾斜せしめたもの。

#### 木製水止め假門扉

(第 282 967 號 公告 14 年第 20 198 號)  
實用新案權者 山口利兵衛

角材を適當高さに重積したものを主體とし其の前面(水壓側)にコンクリートブロックを全面に互り附設したものの。



圖-10.

#### 中空コンクリート杭打込みに用ゆる管體補強金具

(第 283 100 號 公告 14 年第 15 867 號)  
實用新案權者 眞谷貞雄

中空コンクリート管を以て土中に基礎杭を構成するに用ゆる補強管を數個に分割して形成せしめ、打込後其の個々を抜き上げ得るやうにしたもの。

#### 井筒整形輪

(第 283 208 號 公告 14 年第 20 352 號)  
實用新案權者 河川辰吉

彎曲せる工形杆をタンバックルを以て數個組合せて圓輪を構成せしめたもので、接合部(タンバックル部)を覆蓋を以て被覆したのもの。

#### 水壓力に依る可調堰装置

(第 283 792 號 公告 15 年第 826 號)  
實用新案權者 米谷信義

圖-11 の如き可動堰で、止水板 (2) と受壓板 (3) とを補強棒 (4) にて構成し、其の起立は地上高所に設けた貯水槽 (水源を附近の支流に求む) よりの水壓に依る。

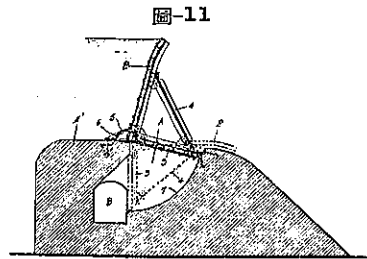


圖-11